

刃物を持った男が院内に！

和歌山病院防犯訓練

美浜町和田、国立病院機構和歌山病院は3日、御坊警察署の警察官を講師に防犯訓練を行った。

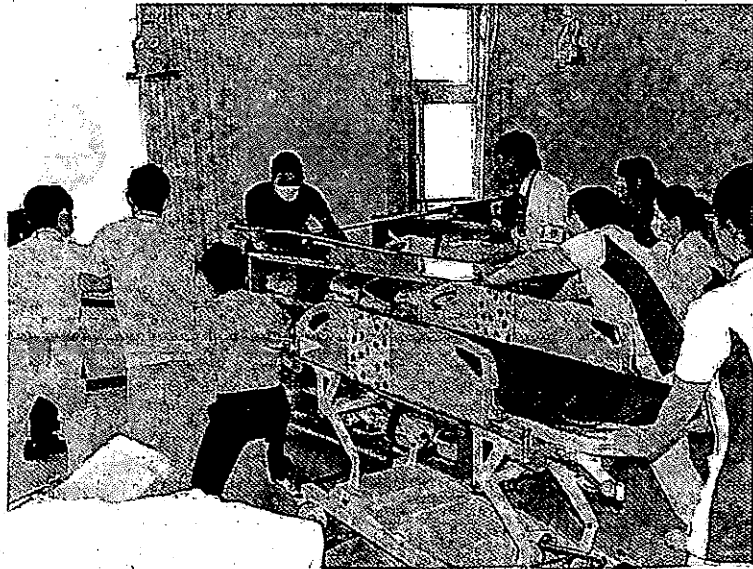
病棟に、刃物を持った不審者が現れたとの想定で、演習。警察官が刃物を持つ不審者役を演じ、看護師や職員らは、不審者が廊下で不満を言い始めると、直ちに警察に自動的に通報できる110番非常通報装置を使って速やかに通報。ストレッチャーやロッカーなど周囲にあるものでバリケードをつくりながら不審者を病室と離れた壁際に追い込み、サスマタを向けて動きを封じた。

訓練後、警察官は「非常に良かった。バリケードにストレッチャーなどを活用し、窓際に不審者を寄せ、サスマタで多方面から押さえられた。3人以上、多ければ多いほど、押さえられるのは有効。これからの訓練をして、時間があるときはサスマタをさわってくだささい」と講評。「持ち方は利き手を前が本来だぞ

うですが、それにとらわれずに自由に使って。できる限り相手から距離を保てるように持って。逆に持って剣道の竹刀のように使うのも手」とサスマタの持ち方を伝授し、「ひとりで対応せずすぐに人を呼んで。警察が来るまでの応急処置として、ケガのないように身の安全を大事に」と続けた。

だれでもできる護身術も紹介。

110番非常通報装置の設置を推奨する公益財団法人日本防災通信協会東支部の覚一郎支部長は、通報のタイミングなどアドバイス。南方良章院長は「リアリティ高く実感を想定して対応できた。全職員が同時に学ぶのは難しい職場ですが、部門部門で防犯知識を身に付けていけるよう、と思っています。引き続きよろしくお願いします」とまとめた。



ストレッチャーやロッカーを盾に、サスマタで不審者を取り押さえる看護師や職員ら